

令和4年度 第2回 石巻圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

■日 時：令和4年7月25日（月）18：30～20：00

■場 所：防災センター 多目的ホール

■出席者：別紙のとおり

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンの策定にあたり、第1回懇談会及び開催後の意見シートで提出された意見への対応について説明した。

1 開会

2 市長挨拶

3 議事

(1) ビジョン案に対する御意見への対応について

資料1に基づき、各分野ごとに事務局より説明。なお、構成員からのご意見のうち、共生ビジョン（案）に反映させたものについては、資料2のとおり修正箇所を説明。

意見・質問

○医療・福祉分野

財源として中心市で年間上限8,500万円とあるが、事業の上限額として決められた値なのか。

共生ビジョン全体の、医療分野やまちづくり分野等すべての事業を合算した上での、国からの財源の上限額である。

ファミリーサポート事業に関して、事業費を記載しないことについては承知した。制度周知、事業拡大に向けた制度調整を内容とするということだが、事業をよくしていくことに当たって、経費が発生するのではないかと思うが、改めての提案は可能か。

現在は課題解決会議の開催や、圏域住民への制度周知ということで、事業費を記載していないが、会議等で事業を展開していくということになれば、具体的な事業費を記載していきたいと考えている。

○教育分野

分科会での貸借サービスのネットワークはどのようになっているか、の質問に対し、

宮城県図書館では郵送による貸借サービスを行っているとの回答だが、石巻圏域ではどうなっているのかを知りたかったのであり、回答に値しないのではないか。

分科会の中で、宮城県図書館で郵送による貸借サービスを行っている旨の発言があったので記載した。なお、図書館に確認したところ、県内共通の貸借ネットワークサービスを使っているとのことである。

貸借だけではなく、情報共有ということで石巻圏域でのネットワークをつくった方がいいのではないかという趣旨を含めての話であり、充実させていくべきではないか。

石巻圏域の図書館では、例えば石巻市民が東松島市の図書館から本を借りられたり、またはその逆も可能であったり、既にある程度の貸借サービスはできている。また、事業の中で情報共有の実施、相互貸借サービスの周知、企画展・研修会の共同開催によってネットワークを更に深めていきたいと考えている。

図書館に限ったことではなく、2市1町の情報を各市町のホームページからではなく、1か所からわかるようなネットワークづくりが必要なのではないか。

圏域で統一したサービスができているかの検証と議論が必要である。その結果専用のポータルが必要であれば作るべきである。

今回のビジョンの中ではデジタル・トランスフォーメーションの取組も位置付けており、合同の情報交換会や、共通のプラットフォームを構築して運営する取組を予定している。その中で、ビジョンに記載した事業の情報化について連携して取り組んでいきたい。

共同実習所を活用していくということで、利用が増えた場合に、施設や職員の拡充が必要ではないか。また、東松島市について要望があれば協定を締結するとのことだが、石巻市から積極的に話しかけてはどうか。

担当課に共有し、積極的な働きかけに努めたい。

2市1町と県の教育委員会を中心に、特別支援の在り方についても委員会を立ち上げて後方支援してほしい。また、社会的育成に向けた集団宿泊活動やレクリエーションの実施とあるので、検討の上メニューに加えていただきたい。

集団宿泊活動やレクリエーションの充実については、年次計画に記載しており、今後も推進していきたい。

特別支援学級は少人数であり、学びが狭い範囲になってしまう。集団の中での学びあいや、多くの教師と接するためには、週に何度か集まることが重要だと思うので検討願う。また、共同実習の内容がこれでいいのか検討する必要があるのではないかな。

担当課に共有する。

○産業分野

色々なアイデアを出していただいているが、これらをどのように具体化していくかの議論は行っていくのか。

今回のビジョンでは政策の調整という項目があり、2市1町の企画部門で政策を調整する会議体を設置し、ご意見を参考にしながら調整していきたいと考えている。

その状況は今後の懇談会で紹介されるのか。

今後も必要に応じてビジョン懇談会を開催し、皆様と意見交換を行い、情報共有を図りながら事業を推進していきたい。なお、パブリックコメントも実施するので、9月末頃を目途に3回目の懇談会を開催し、その結果についても報告したいと考えている。

ニホンジカに関して、ジビエは難しいとの話があったが、都市圏でPRし、事業者に来てもらうというアイデアが考えられる。

若い人が週末に猟に来る際に障害となるのが猟友会である。若い人を受け入れてもらえず、新しい動きがとりづらくなっている。受け入れ態勢を整えていくことが重要だと思う。

担当課に情報共有し、検討する。

○まちづくり分野

三陸道のインターチェンジや牡鹿半島をはじめ、道路にごみが多く落ちている。東松島市や女川町と比較して、石巻市はごみが多い。色々な団体と連携して、ごみのない地域を作ってほしい。また、ごみを正しく捨てるにはどうしたら良いか、といった意識の醸成を2市1町で考えてほしい。

ごみの減量化・再資源化の推進の項目の中で啓発事業も行うので、圏域の他市町の良いところは取り入れながら、圏域全体の環境美化に努めていきたい。なお、担当課に情報共有する。

(2) その他（全体を通した意見等）

公共交通とその他移動サービスの連携に関して、どうすれば圏域住民が移動に困らないかという壮大なスケールの問題であり、地域全体を俯瞰しなければならない。住民が多いところには JR が通り、それ以外の地域も毛細血管のようにすべてがつながっているというようになると良い。

関係人口とは、週末だけ来るような人のことも言うのか。

週末だけ来るような方や、震災後にボランティアとしてご支援いただいた方等も関係人口に位置付けられる。

ニホンジカ対策の際にも話があったが、週末だけ来る人等を許容する意識が必要である。また、外部人材の確保事業に関して、その人たちが活動しやすい環境づくりがキーワードになると思うので、そういった点を取り入れてほしい。

定住人口を増やすには、産業が重要である。2市1町で産業をどうするか真剣に考えていかなければならない。また、観光に関して、海、山、川、歴史といった多くの良いものがあるが、それぞれ点で頑張っているものの、線や面になっていない。それらをつなげていくことが大きな課題である。

多くの人に知ってもらい、経験してもらうようなイベントの企画が重要で、そういった活動への支援が必要になる。

これからどのような形で2市1町でイベントを開催できるか協議し、なるべく早く実現できるよう準備していきたい。

産業については、多くの課題があるものの、それに対してどのように支援していくかを考えていかなければならない。参考に、国では再生可能エネルギーにかなり力を入れようとしているので、大学も入りながら考えていきたい。

学校適応指導教室の連携に関して、学びの環境や不登校など様々な問題がある中で、

けやき教室に関して2市1町で取り組むということだが、より具体的な取組があることが大事で、その結果登校率が上がると良いと思う。

本事業については、対象の児童生徒の学校生活への復帰に向けたけやき教室の運営活用ということで記載している。いただいた意見については、具体的な運営を実施する際の参考にする。

結婚支援事業を行っており、男性と女性のバンクのようなものを考えている。当初、男性は桃生町在住と考えていたが、住みたくなるようなまちづくりを目指すには、2市1町で連携していかななくてはならないと感じた。

子育て世代に住みやすいまちであることが、外から来てもらうには重要である。地域を盛り上げて住みよいまちになることが望ましいので、地域を盛り上げるという視点を持って情報共有しながらやっていく必要がある。

若者のUターンについて2市1町で協力して取り組むべきである。都会に出たいというのは若者の気持ちを考えれば当然であるが、戻ってきたいと思うような情報発信や、同窓会等のコミュニティの強化を行うことが重要である。都会にいる間に世帯を持ってしまうと、戻ってくるのが難しいので、25歳から30歳までの間に地元に戻って来る流れを作ることが課題で、共同で取り組む意義がある。

4 今後のスケジュールについて

9月にパブリックコメントを実施し、10月に共生ビジョン公表を予定している。なお、パブリックコメント後に再度懇談会を開催し、提出された意見やそれに対する修正点等を説明する。また、来年度以降の懇談会では、ビジョンの進捗状況が主な内容となるが、その進め方についても説明する。今回ビジョンを策定し、今後もブラッシュアップしていきたいので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

懇談会に当たっては、事前に資料送付をお願いしたい。

今後は、事前に資料を送付し、お目通しいただけるよう準備する。

ブラッシュアップを行っていくということで、共生ビジョンは今後より良いものになっていくと思っていて良いのか。

定住自立圏構想の一番の目的は人口減少対策であり、事業を推進していくためには、皆様のご意見を聞きながらブラッシュアップしていくことが必要である。今後も情

報交換をしながら2市1町で連携して進めていきたい。

※追加事項

- ・第1回目の会議録を配付したので、内容をご確認いただき、修正点があれば事務局まで連絡願う。最終的には名前を伏した状態でホームページにて公表する。(事務局)

5 閉会